

第 28 回シクロデキストリンシンポジウム報告

第 28 回シクロデキストリンシンポジウムを平成 23 年 9 月 8～9 日の 2 日間に亘、秋田ビューホテルにて開催いたしました。今年は 3 月 11 日に発生した東日本大震災によって東北地区は甚大な被害を受けてしまいました。幸い秋田は被害が小さかったのですが、太平洋側の新幹線を始めとする交通網がマヒするなど、準備を始めた頃はシクロデキストリンシンポジウムを秋田で開催できるのかと不安もありました。しかし、当日は好天にも恵まれ、143 名の参加者をお迎えし、無事にシンポジウムを開催することができました。

シンポジウム初日は午前中に口頭発表 7 件、ポスター賞審査対象発表 51 件の後、総会で平成 23 年度シクロデキストリン学会賞ならびに奨励賞の授与式が行われ、引き続いて受賞講演が行われました。学会賞を受賞された山本恵司先生（千葉大学）には「医薬品分子とシクロデキストリンの固相での分子間相互作用に関する研究」と題して 40 分間の講演を頂きました。奇しくも当日は先生の奥様でいらっしゃる山本友子教授（千葉大学）の日本細菌学会の浅川賞の授賞式（札幌）とのご紹介があり、参加者一同喜びに沸いた記憶が鮮明に残っています。奨励賞を受賞された北岸宏亮先生（同志社大学）は「メチル化シクロデキストリン-ポリフィリン超分子錯体によるヘムタンパク質機能モデルの開発」、また、高島義徳先生（大阪大学）には「修飾シクロデキストリンを用いた超分子錯体の構造制御と機能創製」と題して、お二人ともシクロデキストリンを基礎とする超分子錯体に関して、この分野の最先端の研究成果についてご講演を頂きました。

シンポジウム 2 日目には、近年のシクロデキストリン研究の発展および工業的利用に大きな寄与をしています、Wacker Chemie AG の Dr. Gerhard Schmid 氏に

「 Knowledge of Cyclodextrin Glycosyl Transferases as Basis for Industrial Production of Cyclodextrins」と題してシクロデキストリンの合成法に関して、特別講演して頂きました。

一般発表として口頭発表 19 件、ポスター発表 77 件、ポスター発表では審査対象応募発表 51 件から 4



懇親会風景

件のポスター賞を25名の選考委員の先生方の採点をもとに選び、懇親会の席上で表彰状と副賞が現学会長の谷本敏子先生（武庫川女子大学）より授与されました。受賞されました佐藤慎一郎さん（大阪大学）、根元 装さん（秋田大学）、正井 宏さん（京都大学）、丸山祐護さん（上智大学）おめでとうございます。これからも更なる研究のご発展を願っております。また、今回のシンポジウムで特別講演して頂きました、Dr. Gerhard Schmid 氏にシクロデキストリン学会特別会員としての会員証を谷本敏子会長より授与されました。

9月初旬の秋田は既に秋の気配が漂ってきており、朝晩は肌寒くなってきましたが、会場は参加者の方々による研究発表や質疑応答など熱気に包まれておりました。会場の秋田ビューホテルは秋田佐竹藩の城跡である千秋公園にも近く、昼休み



ポスター発表風景

などを利用して楽しい散策ができたのではないかと思います。また、懇親会の前には秋田竿灯会による竿灯妙技を披露して頂き、参加者の皆様には、少しではありますが、秋田を感じて頂けたのではないかと思います。さらに、歩いて10分程で、東北有数の繁華街である川反もあり、夜遅くまで東北・秋田のお酒や料理などに舌鼓を打って頂けたものと想像しております。

なお、来年度の第29回シクロデキストリンシンポジウムは上田晴久先生（星薬科大学）を実行委員長として、星薬科大学で9月6～7日の日程で開催されることが懇親会席上で紹介されました。

今回のシンポジウム開催に際しまして、関連団体企業各社（日本シクロデキストリン工業会、塩水港精糖(株)、(株)環境工学、(株)サノ、(株)シクロケム、純正化学(株)、(株)セーコン、東京化成工業(株)、東北化学薬品(株)、日産化学工業(株)、日本食品化工(株)）に多大なご支援を頂戴しましたことを申し添え、ここに深く感謝いたします。最後になりましたが、シンポジウム全般にわたり、親切丁寧にご指導頂いた、現副会長の池田宰先生（宇都宮大学）に心より感謝申し上げます。さらにシンポジウムの準備から当日の運営など協力頂いた実行委員の各先生方ならびに学生の皆様に感謝申し上げます。

濱田 文男（秋田大学大学院工学資源学研究科）